



中野のチカラ

西条ほたるの里委員会の皆さん



ホタルが飛び交う環境を子どもたちに残したい

ホタルが飛び交う自然豊かな里づくりを通して、青少年の健全育成や地域の人々の憩いの場づくりを目指している「西条ほたるの里委員会」の皆さんにお話を聞きました。

○区を挙げてホタルの復活を

昔は西条区のあちこちで見られたホタルの乱舞が、工場排水による川の汚染や耕地整理などにより、昭和40年代には見られなくなっていました。下水道の完備により水質が徐々に改善されてきた平成8年、区を挙げて自然保護の活動に取り組みべく委員会を設立し、区民アンケートによりホタルが飛び交う自然環境づくりを目指すことになりました。

○「ほたる川」を造り、守る

「ほたるの里」の実現に向けて、まずは専門家の先生を招いて話を聞きました。そして、ホタルにとってすみよい環境を整えるために、水路のコンクリートを一部取り除いて石積みしたり、川の両岸に樹木を植えるなど、区内外の多くの皆さんの協力により、「ほたる川」を造り上げてきました。

順調に増えてきたホタルが減少し

てしまった時期もありましたが、ホタルの幼虫の餌となるカワニナの減少が原因と突き止め、対策を行ったことでカワニナが増え、ここ数年は再びホタルの数も増えてきました。「ほたる川」の環境を守るためには、草刈りや清掃のほか、カワニナの採取・放流など大変な部分もありますが、今年の中野西高等学校の生徒の皆さんにも手伝っていただき、大変助かりました。

○輝くホタルと子どもたちの笑顔

育成会と共催で行っているホタルの鑑賞会は、ホタルの増加に伴い、年々参加人数が増えてきています。「ホタルを初めて見た」「差し出した手の平にホタルが止まった」と感動する子どもたちの姿を見ると、日々の苦労は忘れてしまいます。

今後は、鑑賞会だけでなく、子どもたちにも川の清掃などに参加してもらい、地元の川や自然に対して、より関心を持ち、愛着を高めてもらうきっかけになればと考えています。

○市民の皆さんへ

ホタルがいるということは水や空気がきれいで環境が良いことの証拠です。こういった取り組みが市全体に広がり、自然豊かな中野市をPRできればいいと考えています。

ぜひ市民の皆さんにもホタルの乱舞を見にきてもらいたいと思います。

中野市合併10周年記念

広報クイズ



■今月のプレゼント

「バラの苗木」：2人

問題

中野市オリジナル品種のバラ2種類の名称は？

「なかの●●」・「●●●ナカノ」

クイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、世帯主名を記入の上、今月の広報で参考になった記事、今後知りたい情報などはがきに書いて、次の宛先までご応募ください。

締め切り 7月27日(月)必着
※当選はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

先月号の答え 中野市合併10周年記念事業の2015信州中野環境祭の開催日は？
答え・・・「9月27日」

383-8614

(住所記載不要)

中野市庶務課

秘書広報係 行

住所・氏名・年齢・
電話番号・世帯主

市民リレー元気の輪

No.12

金井光正さん
からのご紹介



○自己紹介

子育てをしているときに公民館の家庭教育学級に出会い、受講した人々と子育てサークルを作ったのがきっかけで、子どもに関わる活動を続けてきました。

現在も、家庭教育学級の専門委員として講座の企画や託児に関わっています。市の講演会などの際にも、小さいお子さんを持つお母さん方のために託児を請け負うことがあります。

私の子どもは一人ですが、子どもに関わる活動に携わらせてもらっていることで、たくさんつながりができ、喜びとなっています。

また、60歳を過ぎてから、昔話の勉強を始めました。昔話には、人



今井 多恵子 さん (西町)

間の「生」に密着した知恵がたくさん詰まっています。口伝えに伝承されている話を文書として書き起こし、聞きやすい形に整える「再話」という作業を通して、地域に伝わる昔話をその土地の言葉で表現することがとても奥深く、面白みを感じています。

今後は語りも学び、良い昔話を子どもたちに伝えていきたいと思っています。



▲子どもたちを託児する今井さんら

○元気の秘訣

保育園児と小学生の孫と遊ぶことで元気をもらっています。また、いくつもの団体でたくさん仲間といろいろな活動を続けていることが一番の元気の秘訣かなと思います。

○おらほの自慢

中野市は、休日保育やファミリー・サポート・センターなどの取り組みを早くから始め、子育て支援の環境も充実しているので、安心して暮らしやすい自慢のまちだと思います。

池田市長の

わくわくレポート

vol. 23



交流・連携・協働により時代を先駆ける中野市へ

2015信州なかのバラまつりが盛況のうちに終わった。期間中は沢山のお客さまをお迎えし、私たち中野市の魅力をお伝えすることができた。

この3月に北陸新幹線飯山駅が開業し、北陸方面からのお客さまも増えたように思う。報告によれば、中野市を訪れていたいただいた観光客は、4月、5月で対前年比約5%の増加とのことである。計測地毎に多寡があるが、中山晋平記念館では5割増であったとのこと。6月のバラまつりなどが、如何ほどのお客様をお迎えしたか結果が待ち遠しい。

さて、中野市は今年、合併10周年の記念すべき年を迎えた。平成の大合併から10年、時代は大きく動き始めていると感じているのは私だけではないと思う。人口減少が目

に見える形で顕現する中、私たちは将来に向かって郷土の豊かな暮らしを継続し実現するため行動を起こさなければならぬ。しかし、私たちだけの力では、物理的にもまた創造力においても限界がある。

今年、お隣の小布施町からバラまつりに合わせてシャトルバスを運行し、飯山駅からも中野市巡りのバスを試行するなど、あらゆる機会を捉えてお客様を中野市にご案内した。こうしたことが出来るのも、私たち中野市には沢山の観光資源があるからで、私たちが普段何げなく気にも留めない風景であっても、初めてのお客様には心に残る風景となり、様々な感想をお聞かせいただけた。新しい観光資源を発掘しブラッシュアップすることで、魅力を増進することができると確信している。

地方創生が国を挙げての重要施策となる中で、中野市はその景観、歴史、文化、そして、農産物、花きにおいて豊かな地域特性を持ち、ポテンシャルは高い。豊かで暮らしやすいまちづくりは日本全国の市町村の共通の課題であるが、まさに交流、連携、協働により時代を先駆ける中野市を創っていききたいと思う。